婦人衛生雜誌

大正五年六月二十日發行

第三百十九號

明治二十一年十二月二十八日内務省許可（毎月一回廿日發行）

婦人衛生雜誌

第三百十九號目次

例會通知

來る七月一日(第一土曜日)午後一時半より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校内に於て本會例會を開き左の講話有之候間可成御知友御誘ひ合せ御來會被下度候也

婦人衛生上注意すべき事の數々

吉岡彌生女史

大正五年六月

私立大日本婦人衛生會

吉村博士發見
祛痰鎭咳新劑

ブロチン
BROCIN

100錠 Y 0.90

ブロチンは醫學博士吉村喜作先生の發見に係る最新劑にして本邦產 Rosaceae 中 Prunus 屬植物より抽出したるものなり祛痰鎭咳の作用顯著にして從來の祛痰劑の如く粘膜を刺戟せず又不快の味なきに由り小兒も好で服用す、加ふるに食慾不振、嘔氣嘔吐等の胃腸障害其他の忌むべき若くは危險なる副作用を伴はざるは本劑の特長なり。

適應症。 急性、慢性の呼吸器疾患にして咳嗽喀痰を伴ふ諸症、例へば肺結核、喉頭結核、氣管支炎、喘息、百日咳等。

用量。 大人は一日三・〇—六・〇瓦、錠劑(一錠〇・五)六—十二錠、尙增量するも可なり。
小兒一歲は一日〇・五—一・〇、一歲以上一日一・〇—三・〇。

用法。 用事熱湯又は溫湯に溶解して與へ又は水劑として處方せられたし。

東京室町三丁目 三共株式會社

秦醫學博士の嚴密なる動物試驗を經て販賣する

アルサミノール
Arsaminol

六〇六號(子オアルサミノールも今回發賣せり)

帝大敎授鈴木博士指導の下に當社が製造に著手したるアルサミノールは蝟集滯積せる注文に追はれ、供給の數量之に伴はざりしも今回製造規模を擴大し今や漸く大方醫家の需要を充たし得るに至れり。

本品はエールリヒ博士と共に六〇六號發見の名譽を擔はれたる秦博士に依りて一々嚴密なる動物試驗を行はれ同博士の證印を得たるものに限り發賣に供するが故に使用上絕對に安全なり。

東京室町 三共株式會社

婦人衛生雜誌第三百十九號
（大正五年六月二十日發行）

講演

日焦の原因及び豫防に就て

醫學博士　高橋順太郎

私の茲にお話いたしますのは、日焦の原因及豫防に就て申上げるのでありますが、日焦と云ふことは皆様は承知の通りに日光に曝されると云ふことから何時も起るのでありまして、其起る鹽梅は長く日に曝されて居るか或は又短い間日に曝されて居るかと云ふ違ひだけでありますが、其輕いのでありますと皮膚の唯赤くなつて來るだけのことでありますが、強いのになりますと赤くなると同時に腫れて參ります、倘強くなるとぴり〳〵と焼けるやうに痛む、倘一層強くなりますと遂に水胞が出來ます、それから暫くすると皮膚が薄い膜のやうになつて剝ちてまゐります、それから倘時が經ちますと遂に初め赤くなつて居つたところに別の色が付いて來るのであります、それで其色の付くのも日光に曝された時間の長短に依つていろ〳〵でありますが、初めは淡褐色の色が付いたものでも酷くなりますとそれが濃褐色くなつて來るのであります、それで皆さん御承知のやうに妙齡の婦人などは皮膚の色艶が純白なものを今日では美人たるの最要の資格として居ります、それが日に當りますと色が付て來て容易に剝げませぬ、でありますから御婦人に對して此原因を究めて豫防することを研究するのも有益なることであらうと思ふのであります、それを申しますには少し理窟ばつたことになりますが光學上のことを御話いたします。

それで太陽の光線を取るにはいろ〳〵の方法があり

ますが、此圖で示す通り暗室に小さい孔を開けて外から光線を入れる、さうすれば向ふの壁のところに圓い光像が映ります。それから暗室の孔の前に「プリスマ」と云ふ三角形の硝子を保ちて光線を受けますと、光線は元の方向より屈折せられて圓形でなく美麗なる虹彩の樣なる色帶が向ふの壁に映じます。そふ云ふ風に無色の日光が「プリスマ」によつて、いろ／＼の色に分れる、其色が凡そ七色と云ふて卽ち赤、樺色、黄色、萌黄、青、紺、紫、此七色に分れたものを「スペクトルム」と稱す。更に此「プリスマ」で屈折された光線にも屈折の度の強弱がある、最も弱いものは赤でありまして最も強いものが紫であります、扨て「スペクトルム」の各部にどう云ふ働きがあるかと云ふことを研究して見ますと、無色なものが色になる、色になるばかりでなく熱があることは皆樣御存知でありませう。太陽の光線には光と熱の外に化學作用があることは近年になりて明らかになりました、而して「スペクトルム」のどの部分に於て化學作用が強いかと赤の側より紫の方へと探り見るに、赤黄色の部には弱きも紫の方向へ行くに從つて彌々強くなり、終には紫を越えて視るべからざる處に至つて最も強し。此の部分を紫外線と云ふ。

扨て光輝は如何して出來るかと問ふに、光學の方では光と云ふものは極く細い「エーテル」の震動に依つて起る、卽ち「エーテル」の震動で光が發するのであります、で光は震動によつて起るのでありますが、之を波動と云ふて波のやうなものであります、例へば水面に石を投げますと其ぐるりに波が出來る、高いところに上つたり低いところに下つたりするものであります、其外のもので見ますと同じく波の起るのは例へば音樂で云ひますと、琴か三味線の絲があつて其絲に駒をかけて之を上へあげて放すと、それが彈力によつて一遍下つたのが復上つたり下つたりするためにぶる／＼震へるのであります、其震ひが空氣に傳つて耳に達して音が出來る、之を波卽ち波動と云ふのであります、其波は長い短いいろ／＼の

ものが出來ますやうに、「エーテル」は今述べた投げ石又は彈かれた絲の如く震動する爲め光線を放つ、其の光線を屈折するために其屈折の度の強いとか弱いとかによつていろ／＼なものがあります、さうして其弱いのが長波の赤で強いのが短波の紫であります、即ち「エーテル」の震動の遲速によつて熱を起すか、光を生ずるか、化學作用を來たすかの差異があります。詳しく言へば「エーテル」の震動稍遲き長波のもの(赤外線及び赤黄色線)は主として熱を發し震動速かにして稍短波のものは光を生じ、震動最も速かにして短波のもの(靑紫線及び紫外線)は主として化學作用を呈す。斯う云ふをことを先きに申上げて置きます。

それから今一つ御話いたしたいことは螢光彩と云ふものでであります。之を見るには一つの硝子管に液を入れてそれに由つて透通して見ると全く無色のものであつても上から覗いて見ると色が付く、斯う云ふ作用を螢光作用と云ふのであります、ちよつと一二の物を溶して御目にかければ直ぐに分るのであります「エオジン」液で實驗して示す)是は遠くから御覽になりますと少し色がありますが、透過して見ると赤い色になつて居る、上から覗いて見ますと萌黄色になつて居ります、第二それから是は遠くから見ますと殆ど無色でありますが、是も上から見ると靑い色であります、斯う云ふ風に透して見ると無色なものでも上から來た光線では色が付いて來る、此の現象は短波の紫外線が色のある長波のものに變せられて眼に視ゆるのです、斯う云ふ作用を螢光作用と云ふのであります、是だけのことを先きに御話いたして置きます。

是から日焦の原因に就て申上げます、光及び熱の出ることは皆樣御承知でありますから申しませぬ、化學作用を應用することは寫眞術などで皆樣御承知であります、寫眞を撮るにも波長の短い紫外線の方が強いのでありまして赤いものの方が弱いのであります、其證據は赤い着物を著て寫眞を撮ると赤いもの

が黒くなります、之れに反して青いものは白くなる、其外日光の化學作用を應用するのは絲を晒す或は反物を晒すに能く日光に曝すとそれが不潔な色でも潔白になつて來る、それから今一つの化學作用は人間の皮膚などに焮衝を起す、種々の病氣の原因になる黴菌、之を日光に曝すと殺菌の作用をする、其他皆様が御承知の大掃除の時に疊、蒲團などを日光に曝すと病菌が殺される、其の外か水中に棲息せる病原の黴菌も日光が永く輝り付けば滅亡されてしまふ、水の自然消毒ができる、是が紫とか紫外線の働きであります。それで此紫外線の方は空氣を通じて太陽から光が來ると、空氣の中で屈折する度の強いものは絶えず吸收されてしまつてさうして地上に達することが少ない、それでありますから高い山に登ると多くの空氣の層を通さぬから高山などは紫外線に富んで居るのであります、從つて紫外線の働きが強くなつて來る、それで近年は其働きを應用して高山の日光に曝される、所謂日光療法と云ふものでいろいろの病氣が全快すると云ふのであります。

それで日焦はどうして起るか、何國でも日焦は熱で焦けると云ふやうに思つて居たが、日本ばかりでなく西洋でも初めはさう思つて居つた、けれどもそれは熱のために起るのでなくして寧ろ化學作用で起るのであります、卽ち赤の方でなく紫の方、尚紫を越えて視るべからざる紫外線の働きであります、其ことも近年になつて分つたのであります、何故かと云ふと此ことを知つたのは先程申しましたやうに、太陽の光線が地上に達するのは空氣を通じて來るから餘り紫外線が多くない、是に反して紫外線に富んで居るものは電氣の光である、殊に電氣の「アーク」燈などです、それから普通の硝子の「プリズマ」で見れば紫外線を多く吸收するも石英の「プリズマ」は多く紫外線を透過する、それで近年はいろ／＼の裝置が出來て居る、例へば水銀石英燈と云ふやうなものもある、此れは石英を熱で溶して筒の形ちを拵へて、其中を眞空にしてそれに少量の水銀を入れ電氣

を通ずる、さうすると水銀が電氣のために蒸發するそれが殊に多く紫外線を有つて居る、さうして水銀石英燈に電氣を通じてそれが皮膚に働くと炎症を來すのであります、其炎症は先きに申しました日焦と同じやうであります、で此赤くなるとか或は腫れるとか水膨が出來るとか、さう云ふやうなものが出來れば勿論熱に依つて皮膚が赤くなるけれども、熱で出來たものは早く起り早くなくなつてしまう、けれども化學作用で起る場合は稍ゝ時が經つてから起る其代り容易に去らぬのであります、それから冷めたい時にも日焦が起ります、それは雪の降る地方に旅行すると焦けることがあります、西洋で有名な瑞西の「アルプス」、あの山の氷のある所へ旅行すると屢屢日焦を起すことがあります、それなどは熱でなくして紫外線で焦ける、それは雪とか氷の面に日光が其處を照して反射する其反射するのは主に紫外線を反射するからそれほど熱がなくても日焦を起すのであります、それ故に日焦は熱でなくして主に化學作用で起ると云ふことが分る、其中で働くの間赤くなるとか、痒味があるとかと云ふのは一時のものであつて間もなくなくなつてしまいますけれども、其最も厭ふべきことはそれから後に付いて來る色であります、其色もまだしも少し日に曝されると薄黑くなる位でありますが、度々日に曝されると眞黑になるどうして黑くなるかと云ふに其皮膚の下のところの層に色素が增して來る、細胞の中に色素が多く出來て來る、それが表面に出來たのならば少し擦ると剝げますけれども深い所に出來たものは迚も取ることが出來ない。

それで色素が出來るのはどう云ふ譯であるかと云ふと、日光の化學作用と云ふものが是が又皮膚に向つていろ〳〵な作用を起す、強くなると皮膚に炎症を來すのでありますが、それが幸ひにして表面だけに止つて居つて皮膚の深い所に這入らぬと云ふのは、屈折の度の強き線は皮膚の深部に達せぬ、若し此の紫のやうな強いものになつて深い所へ這入ると人

體に害があるのであります、で深く這入らぬと云ふのは一つは身體の中に血液が循環して居るから、其血の赤い色が外のものを吸收して皮膚の深い所へ通さぬのであります、それで此化學作用を起させるにはどふ云ふ風にするかと云へば、石英「ランプ」を用ゐる、尙其外に石英の板を以て皮膚を壓迫すると、それがために其處の部分の血液がなくなる、さうすると深い所まで這入つていろ／＼な變化を起して腫物などを治すと云ふやうなことがある、それでありますから前に申しました色素が出來ると云ふのは、皮膚の深い所に化學作用を及さぬやうに自ら防ぐ即ち自衛的の必要から出來るのであります、それで一度色が付いたものは度々日に曬されると其色が段々增して來て、遂には眞黑になる、もうさうなつたらそれより黑くはならない、それで人の顏色は誰でも同じやうでない、かの西洋人などの白晳人種になると日に曬されると非常に色が付き易い、「ブロンド」の黃金髮色の人よりも髮の毛の少し赤い人になると一層色が付き易い、さう云ふ人になると顏にぼつぼつが出來る、それを夏日斑又は雀卵斑と云ひますが少し日に當ると直ぐ此雀卵斑が出來易いのであります、それが冬の時節になると幾らか減じて來ますが、又次ぎの夏の日光に曬されると色が付いて來るのでありまして、深い所に日光が這入らぬのはそれは造化の妙技とでも申しませうか、あの暑い土地に生れた亞非利加の黑奴などは生れ付き色が黑くなつて居りますから其上黑くなることはありませぬ、それで色の白いものでも日に當ると黑くなつて來ますが、其黑くなつたものをどうかして取ることが出來るかと云ふと、それはどうも出來ない唯時を待つて居れば取れることがあります、さう云ふ具合であるから一度色の付いたものを取ると云ふことは出來ぬが、其原因を知つたならばそれを出來る前に豫防する、其ことはなし得るのであります、それはいろいろの方法があります、

第一日光に曬されぬのが宜い、昔の貴婦人などは深

窓の中にばかりに居て外に出ぬ、其代り新鮮の空氣に觸れないと云ふところからして顏の色が蒼白いばかりでなく靑褪めて居つて病氣に罹り易いと云ふ虞がある、併し當時のやうに交際が盛んになつて來たら、其やうにして深窓の中にばかり居ると云ふことは決して宜くないことであらうと思ひます、外出をして新鮮な空氣に觸れる或は日光に觸れる、或は又海水浴に出掛けることも宜からうと思ふ、それで光線に觸れて其化學作用を避けると云ふにはいろいろの方法があります、それには日傘を翳すとか或は顏に「ベール」を被ぶると云ふ風にして置いたならば幾らか日光を避けることが出來ますけれども、海水浴に日傘を翳す「ベール」を被ぶると云ふことは、ちよつといたし難い、さう云ふ時には何か旨く外に豫防するものを用ゐなければならぬ、それで中には白粉を用ゐる、白粉を厚くこて〳〵塗れば幾らか防ぐことが出來ますけれども、是もどうも目立つもので餘り面白い方法ではない、是までやつて居る人は螢光作用を以て居るものを用ゐる、例へば軟膏のやうなものを拵へて之を塗る、それよりか好い方法はないやうであります、此處へ斯う云ふものを持つて來ましたが餘り赤いものを塗つても見つともない、それならば色のないものが最も適當であります、ところが色がなくして螢光作用を有つて居るものは皆無と云ふ譯ではなく物によつてはありますが、第一さう云ふものは恐ろしく價が高いので是も適當ではありませぬ、或はそれが有毒性のものであつて皮膚を粗糙すと、それでは却つて「前門拒虎後門進狼」と云ふ風であつて適當と云ふ譯には行きませぬ、衞生上無害であつて無色且顏に塗つても少しも分らぬ、斯う云ふものが、望ましいのであります。それで大略是に擬するものがありますが、是は顏であるとか其他皮膚に塗つても一向分らぬ、婦人方でも若い人であれば宜いですが學校の先生などが白粉を塗つて居ると云ふと人に見られて笑はれる、それでも矢張り色を黑くすることは嫌やだから著けたい、斯う云ふ

人には極く適する、或は又男でも餘り色が黒くなつては惡いと云ふ人のために之を拵へるのは無駄なことでない、それでいろ〳〵のことを綜合して見て拵へたものがあります、それは皮膚專門の人にも試みて貰つて居りますが、水銀石英燈で照らすに皮膚の一部に之れを塗りて他の塗らぬ處と較らべて見ると用ゐぬ所は光に輝されて色が付く、其色は半年位剝げない、それを塗つたところは少しも色が付かぬと云ふことは既に認められて居ります、それで私は斯様なものが日焦を豫防するに適當なものであらうと思つて居りましたが、今回御園蝴蝶園、是は化粧料を專門にして居る所でありますが、其處でそれも製造して化粧料にするに付て、私に諮りましたから私も宜からうと云ふので、製造のことを承諾したのであります、それで今度それを發賣することになつたのであります、其名前は「御園ルチゲン」と云ふのであります。

私の御話することはそれだけに致して置きまして終りに臨んで「御園ルチゲン」の主人から會員の御方に此「御園ルチゲン」を進呈いたしたいから、御試しあらんことを私から申してくれと云ふことでありますから、此ことを一言御傳へして置きます。

叢談

濕氣の話

醫學士　佐々木　秀一

（一）水及濕氣の善惡兩方面

水は飲料として人生一日も缺くべからざるもので、其外沐浴や洗濯にも亦た無くてはならぬものでありますが、其一度使用して不潔になつたものは反對に滯て居ては誠に不衞生なもので下水の排除は出來るだけ良くせねばならぬものになります。水の變形である所の雨や雪も或意味に於ては無くてはならぬ

もので農作物の發育上必要であり、道路や空氣中の塵埃を洗ふ爲に必要であり、又空氣に一定の濕氣を與へて呼吸を樂にさせ氣候を緩和にする爲に必要でありますが、若し雨が多過ぎると反對に甚だ不愉快な不健康なものになり、道路は泥濘を增し植物は腐敗し、下水は排除し難くなり、外出する者は雨に濕ひ、皮膚の弱き者は爲に感冒に罹り易く、衣服の洗濯は乾かず、其の上戶外の運動は妨げられ、種々不快の事のみ多くなります。丁度梅雨の季節が夫であつて衞生上特に注意すべき時になつて居ります。以上述べた飮料水、下水、雨雪の如きは有形な水であるが、之の水が水蒸氣の形になつて居るのを濕氣と申します。

（二）濕氣の衞生上必要な意義

濕氣は衞生上又た重大な種々の關係があつて良い意味も惡い意味もあります。先づ良い意味の方から申すと、空氣中に適度の濕氣があると氣候が緩和になり、夏の暑さも其爲めに穩かになり冬の寒さも急劇な變化が無くなつて都合良くなり、咽喉や其他の呼吸器の刺戟が少なくなります。本年流行した感冒なども空氣が乾燥して居た時には大分蔓延も强く患者の咳嗽も强かつたのですが、雨が降つて空氣が濕つて氣候が穩かになると同時に一時に減少して患者も輕快を覺えた者が多かつたのでした。似よつた事柄でありますが或家で「ストーブ」を設けられてから多數の家族が咽頭を痛め又大した變化を認めないが咳嗽が出て困つて居たのです。而して初めは夫が何の爲であるか氣が附かなかつたが、私は試みに空氣を少し濕ほす裝置をするやうに薦めた所が其日より直に變な咳嗽が失くなつたと申されました。

（三）濕氣の衞生上惡い意味

此んな風に適度の濕氣は甚だ大切なものでありますが其反對に過度の濕氣は甚だ惡い意味を持つて居るのです。濕氣が空氣中に多過ぎると今度は氣候を緩和にせずして返つて强烈にします。冬の寒さは濕氣が强いと殊にひどく感ぜられ、さ程でも無い寒さで

も人に風をひかせます、滿洲や歐羅巴の冬は日本内地の冬に較べますと寒暖計の上では甚だしい相違であるに係らず其割合には寒く感じません。其原因は滿洲や歐羅巴等の大陸的氣候は濕氣が少ない爲であります。同樣に夏の暑さも空氣が乾いて居ると皮膚の蒸發が盛に行はれる爲めに比較的に樂に感ぜられ之に反して濕氣が多いと俗に云ふ蒸暑くて堪へられたものではないのです。其外、濕氣が多いと衣服が常に濕ひて不快を覺え、冬は感冒に罹り易く、暑氣に向へば黴菌の發育甚だ盛になりて云ふべからざる臭氣を發し、衣服に限らず日本家屋の壁、戸棚等にも黴の發生著しく到る處黴の臭を帶び、煮沸したる食物も腐敗し易く、便所及溝溜の臭氣も一段と強く感じます。此等の狀態は殊に梅雨の候に於て甚だしいので御座います。

(四)濕氣の多少を知る方法

空氣中の濕氣を測定するには二本の寒暖計を立て其一方を水で濕ほし一方は濕ほさず、其兩方の溫度の差を見て夫から計算する方法が一番行はれて居ますが普通の家庭には一寸用ゐられません。又毛髮濕度計と云つて濕氣の爲めに毛髮の伸び縮みする度合から計算する便利なのもありますが是は多くは安價でないので、やはり普通の家庭には向きません、其上濕氣が六十度とか八十度とか云つても氣候の寒さ暑さによつて衞生上の意味が少々異りますから、氣溫を測る寒暖計のやうには一寸簡略に取扱はれません。其爲に寒暖計は大抵の家にはあるが濕度計は備へて無いと云ふ事になります。仕方が無いので天候から推して大體を知るのです。雨の日は濕氣は甚だ多く天氣の時は少ない、雨の日が續けば毎日濕氣が多く、天氣が續けば濕氣は少なくなるは當然です。同じ天氣の續く時でも夜及早朝は濕氣が多く日中は少ないので外出するにも體の弱い人などは其心掛をするが良い事になります。夏の夕涼みなどで衣服が漸次濕つて來るのは良く判ります。然し此等は重に外氣に就ての御話で室内の濕氣と云ふ事になると又

大に趣を異にします。

（五）室内の濕氣の原因

家屋の構造が良くて其爲めに濕氣が無い場合であると如何に毎日雨天が續いて外氣は濕めつて居ても室内は乾いて居ますが其反對に家の構造設備が惡いと如何に天氣の續く季節でも室内は濕り勝ちで不愉快でなりません。然らば室内の濕氣は何によつて來るかと申すと壁や牀が濕つて居て常に乾いて居らぬ爲めであります。壁や牀の濕ふのは何處から來るかと云ふと夫は土地が濕つて居るのに原因します。土地の乾燥しない原因はと云ふと種々ありますが第一は土地が低くて山の下にあつたり埋立てた低い地面であつて地底水が近く地面に少し深い孔を堀ると水がたまると云ふ様な處であります。すると其地面は常に濕つて居て天氣の續く時分でも中々カラ／＼には乾かないのです。故に低地の住居は一般に健康に良く無い事になるので成るべく高地を住居に選ぶが良いので、若しも低地に家を建てる場合は夫れ相應な設備をする必要が出來ます。第二は下水及雨水の排除方法が惡いと土地が濕います。土地元來は濕地で無くも下水が惡くて其水が浸み込んだり雨が降る毎に雨水がどー／＼椽の下に流れ込む様では到底地面は良く乾きません。下水を良くする事は要するに室内を濕はし戸棚を黴臭く仕ない豫防法となる譯です第三の原因は日光の當りが惡く又風の通じが良くないのにあります。斯かる地面は兎角乾燥せず苔などが生へて居て其附近は一種の臭氣があるので判ります。殊に北側の塀の隅などに斯かる場所があつて其處に接した壁及斯かる場所に當る戸棚などは殊に濕氣が多いのです。

（六）濕氣が室内に侵入する道筋

地面が濕つて居ますと其處から絶えず水分が蒸發します。啻に水分許りでは無く濕つた土地には無數の腐敗菌が繁殖するので其微菌の分解産物である種々の瓦斯體が多量に發散します。普通の日本家屋であると此水分及臭氣を伴つた瓦斯が先づ椽の下に出る

椽の下が高くて風の吹通しが良ければ其水分及死斯の大部分は外に出るが夫も天氣の場合の話であつて雨の日であれば濕つた空氣がやはり椽の下を通行するので、どうしても椽の下なるものは兎角濕ひ勝であります。次に日本家屋の牀の構造は甚だ疎末であつて牀板の間がすけて居り其上に敷いてある疊なるものが又甚だ良く空氣を通ず品物でありますので、濕つた椽の下の空氣は此粗末な板張と疊とを通して室内に昇つて來ます。幸に日本室は大抵開け擴げる事が多いので其濕氣や臭氣の蓄積が少ないのですが若し夜になつて雨戸でも閉じて時をたつと臭氣が多くなるので判ります。尤も鼻の嗅感は直きに馴れるものであるから其中に居ては判らない。新鮮な外氣に馴れた鼻で急に斯く閉込めた室内に這入ると良く判るのであります。又冬の風のある日に戸棚の中に蠟燭の焰でも置いて見ると牀の隙間から椽の下の風がどし〳〵侵入するのが判ります。斯かる次第で日本室の戸棚の中は常に一種の臭氣と濕氣が籠りますいつとなく壁が濕ひ簞笥が濕ひ本箱が濕ひ梅雨になると是が一層甚だしく成ります。

（七）消極的の濕氣除去法

屋内の濕氣を除く手段は室内に適當に火氣を置くのでありますが冬以外には行はれ難い。そこで雨天の際は成るべく障子や窓を閉じ、天氣の良い空氣の乾燥した時を見計つては戸障子を開くのみならず戸棚、簞笥、本箱等も開放し、出來るだけ天氣を利用して乾燥を圖るより方法がありません。尙ほ進んで局所的の濕氣豫防法を行ふのです、即ち衣服なり書籍なり少數の必要品だけを特に濕氣に冒されない處の金屬性なり油紙、澁紙なり又「ペンキ」塗なりの箱、簞笥等に納めるのであります。然し斯の如き姑息の方法よりも一歩進んで椽の下より濕氣の侵入を豫防するやうに致し度いのです。夫には戸棚の中を良く調べて隙間の無いやうに手入をなし、新聞紙を張つて澁を塗るとか、油紙又は相當の厚紙を張るとか、一番良いのは戸棚の内部を悉く「ペンキ」塗りにして仕

舞ふのであります。斯くすれば戸棚の中は比較的完全な濕氣豫防場所になります。次に疊の下にも新聞紙なり油紙を敷きつめるのです。

（八）積極的の濕氣豫防法と家屋の改良、

濕氣の無い衞生上健康な家屋を得やうとすると、是非とも家屋の建築上に改良を加へるより仕方が無いでせう。普通の日本家屋は牀板や戸棚の中のやうな見えぬ場所は兎角粗末に隙だらけにする習慣がありますので是非之を改良する必要があります。殊に戸棚の中は一切「ペンキ」塗にでもするが良いと思ひます。次に壁の濕氣が甚だ重要な意味をなすもので、新築の家屋でまだ壁が充分に乾かぬやうなのは甚だ不衞生でありますが、壁の構造の如何によりましては中々乾かず、又天氣の續く時だけ多少乾いても雨天が少し續くと直ぐに外部の影響を受けて容易く濕めるのがあります。故に壁の構造を良くして殊に家の外壁が雨の爲に濕れて夫が内部に浸み込まぬやうの構造に致し度いものです。人家の稠密な町中では日光の當りが良くないので壁を日光で乾かす事はちと困難ですから殊更に壁の濕はぬ性質のものが欲しいのです。近頃は水分を引く赤煉瓦や粗末の外壁の家が少なくなつて滑面の煉瓦や「ペンキ」塗や硝子戸の家が多くなつて來たのも濕氣豫防の意味からは慶賀すべき事です。最後に必要なのが椽の下の構造です。在來の日本家屋で椽の下の構造を良くする工夫は色々にありますが、一足飛びの改良としては椽の下をやめて西洋家屋のやうに地下室を設ける事が甚だ便利で且つ場所の經濟上には有利のやうに思ひます。日本の目下の家屋は平家が地下室と同樣な衞生的關係になつて二階が初めて本統の衞生的の住居であるかの如き場合も少くないと思ひます。地下室と云つても必ずしも地下に位する必要はなく、日本屋の全部でなくても良いでせう。例へば家の表附は在來のやうにして後部の一部分に椽の下を廢して地面を「タヽキ」又は「アスファルト」のやうなものとなし之を物置きなり、臺所なり、勞働場所なり、時には

小供の運動場なり高さの低くて良きものに使用し、其上に住室なり寢室なり納戸なりを設けて然るべきかと思ひます。私は斯かる方法は早晩必す普及されべき性質のものと信じます。

丹毒の話

醫學士　篠原昌治

前回に猩紅熱の話を申上げましたから、今一回引續て何か傳染病に就て申上げたいと思ひまして、丹毒の話を申上げることに致しました。

丹毒は、窒扶斯や赤痢の樣に多くある病氣ではありませんけれど、さりとて稀有のものでもありませんから多くの方は此病氣を御覽になつたことがあるであらうと存じます。

丹毒とはどう云ふ病氣であるかと申ますに、これは皮膚が赤くなり、腫れて同時に疼痛があるものでありまして、此病氣は皮膚の或部位より始まり、漸次周圍に擴がりゆくことを特有として居るものであります。其原因は、連鎖狀球菌と云ふ一種の黴菌が皮膚に侵入して、それが身體の深部に入ることなく、唯皮膚のみを傳つて漸次擴がる爲に起るものであります。併し此連鎖狀球菌は、丹毒にのみ特有のものではなく、其他蜂窠織炎、又は重症敗血症等の種種なる病氣を起すものでありますけれど、唯傳染の仕方、皮膚深部の淋巴管に擴がることの有無、黴菌の毒力等の差異によつて、時として丹毒となつて皮膚のみに擴がることもありますし、或は其他の病氣となつて身體の深部までも侵す樣になることもあるものであります。

丹毒は、大體之を二つに區別することが出來ます、即ち外傷性のものと、特發性のものであります、外傷性の丹毒とは、凡ての外傷、又は手術後等に來るものでありまして、比較的重症のものが多くあります、併しそれは今回申上げるものではなく、私は主として特發性のものに就て申述たいと存じます。

併し丹毒は、之を嚴重なる意味より申ますれば、必ず外傷に伴ふて來るものでありまして、特發性のものがあるべき筈はありません、何となれば、全く無傷の皮膚より、連鎖狀球菌が侵入することは殆んど不可能のことであるからであります。而して一般に特發性と思はるゝものは其傷が餘りに小く、其爲に人の注意をひかず、容易に看過せらるゝに過ぎないのであります。

斯くの如き特發性と見らるべき丹毒は、主として、顏面、又は頭部に來るものでありまして、多くは耳、鼻等に於ける小なる皮膚の剝脫、裂傷又は搔破等より發生するものであります。併し稀には、顏面及び頭部の其他の部分から生ずることもあります、時としては感冒に罹つて洟汁が出る爲に、其邊の皮膚が糜爛して其處から丹毒を生ずる樣な事もあります。

丹毒は、皮膚から來るばかりでなく、時としては鼻腔や、咽頭の粘膜より發生することもありまして、其際は先づ鼻の内部に擴がり、それより漸次鼻の外部の皮膚に及ぶと云ふ樣な順序になることがあります。

顏面の丹毒は比較的靑年に多くありますけれど、小兒にも又老人にもないことはありません、殊に婦人は男子よりも多くある樣であります。外傷性の丹毒は、一度此病人があつた病室や病院に於きましては、其處に病毒が止まつて居つて、新たに入つたものが、又此病氣に犯さるゝことがあると云ふことはよく知られて居る事實であります。

其他特發性と見らるべき丹毒が一定の場處（たとへば監獄等の如きもの）に特に多數に發生することもありますし、又同じ家族の多數の人が同時に顏面の丹毒に罹ると云ふ樣なこともあります、然し此等の場合には、多分皆んな同じ原因によつて傳染した爲に起つたものでありまして、丹毒が甲の患者から直接に乙なる健康の人に傳染すると云ふ樣なことは極めて稀なことゝ存ぜられます、併し外傷のある人は決して丹毒患者の傍に近寄つてはなりません、然ら

ざれば丹毒傳染の危險を完全に豫防することは到底出來るものではありません、丹毒は斯く健全の人には容易に傳染するものではありませんけれど、若し其病毒を人工的に移植しますれば、患者から他の健康の人、又は動物に移すことが容易に出來るものであります。

丹毒は他の傳染病、例へば窒扶斯、麻疹、猩紅熱等の樣に一度此病氣に罹れば再度感染することは稀であると云ふ性質のものではなく、此病氣には同じ人が度々罹るものでありまして、一二ケ年毎に一回づつ顏面丹毒に罹り十乃至十五回も丹毒に罹つた人もあると云ふことであります、それは多分慢性鼻炎とか、又は耳鼻の慢性濕疹等がありまして、其爲に丹毒に罹り易き狀態になつて居たのであろふかと思はれます、丹毒も度々罹りますれば其病勢は漸次輕くなりゆく傾向を有するものであります。一般に衰弱した人は此病氣に罹り易く、病院では肺病、瘰癧又は凡ての病氣の末期のものは丹毒に罹り易くなるものであります。

丹毒に罹つた時に、最初に氣の附くことは皮膚の腫脹でありまして、同時に皮膚の緊張疼痛を感ずるものであります、其部分の皮膚を視ますれば赤くなつて居りまして、それが周圍の健康なる皮膚との境界は普通徐々に移行するものではなく、線狀となつて明らかに區別がついて居りまして、且其境界は少し隆起して之を見且觸るゝことが出來ます、又同時に發熱致しまして其爲に全身不快の感、食慾減少、頭痛時として嘔吐を來すこともあります、他の場合には烈しき全身症狀を發し、第一に戰慄を來し高度の頭痛全身倦怠等が之に伴ふこともあります、局處症狀はそれと同時に來ることもありますし、又時としては一二日後れて來ることもあります、それは局處症狀が最初輕微であるか又は毛髮中などにある爲に發見し難いことがある爲めであります。

丹毒性皮膚疾患は、其發病部位より漸次擴がりゆくものでありますが、それが時としては皮膚に深い皺

發のある處に行きまして其處で進行が止まることもあり、又毛髮發生部との境界に至て止まることもあります、併し其他の何れの部位に於きましても自然に止まることもあります、一旦毛髮發生部との境界を超えて頭部に侵入しますれば廣く其部分を犯すことがあります、又顏面丹毒は多くの場合に於きましては、顏面及頭部だけに止まるものでありますけれど、時として頸部を通過して胸、背、腹、手足等に擴がることもあります、此時は顏面は既に治癒し全身に擴がつたものも漸次輕快して、持續的でなく、處々に散在性となることもあります、又此丹毒のある部位は唯に赤くなつて腫れるのみでなく、皮膚に水疱が出來たり、又時としてそれが化膿する樣なこともあります。

斯る局處症狀の外に、全身症狀としては熱發を來すものであります、其發熱は病氣の初めに急に發することもあります、又一二日後に來ることもあります、丹毒の時は高き熱を發するものでありまして、四十一度位にもなることがあります、此熱は持續的にあることも又少しの弛張があると云ふ樣なものもありますけれど一般には甚しく昇降するものであります。

顏面丹毒の場合には多く頭痛がありますが、これは病氣が頭部の近くにある爲ではなく、黴菌の爲めに出來た毒物が血液の中に入り、その中毒の爲に來るものであります、又此病氣の時には患者は不安狀態となり、興奮し不眠症に陷り、夜間譫語を發することがあります、或時は精神昏瞢となる樣なこともあります。此等の症狀は血液循環の障碍と前と同じく中毒症の爲に來るものであります。

顏面丹毒の際には、屢々胃腸障碍を來すものでありまして、其爲に食慾缺乏し、舌は苔を被り、嘔吐を來すことがあります、又便祕することもあり下痢となることもあります。

此病氣の經過は著しく相違して居りまして、輕き時は數日にして治癒しますけれど、重き時は一二週間

又は數週間を要することもあります、然し豫後は一般に佳良でありまして、多くの場合に於きましては治癒することが出來るものであります。併しそれは所謂特發性のものゝことでありまして、外傷性丹毒は之に反して極めて危險な病氣でありまして忽に全身に瀰蔓し高熱を發し遂に敗血症に陷りて死亡することが屢々あるものであります。

丹毒の際にも他の病氣と同じく確に效能があると云ふ藥はありません、此際一般に用ゐらるゝ藥劑は沃度丁幾、硝酸銀、沃度仿謨「イヒチオール」石炭酸「コロヂウム」等であります、其他此病氣の時に用ゐて效果があると云はるゝ藥劑は極めて多數でありますけれど、元來一つの病氣に對して多數の藥劑が用ゐらるゝと云ふことは、其病氣に對して特效藥がないと云ふことゝ同じでありまして、何れのものが特に效力を有すると云ふものもありません、夫故此等の藥劑を用ゆると云ふことは元來何等の效力もあるものではなく、此病氣はもと／＼治癒し易いものでありますからそれが丁度自然的に治癒に傾いた時に或藥劑を用ゆると其藥劑が非常に效力があつた樣に思はれますけれど、それは一種の誤解であつて、決して其藥劑の效能ではないと云ふ樣に考へて居らるる人もあります、併し此病氣の時に此等の藥を用ゐて效力がないと云ふ證據のある譯でもなく、又此等の藥劑が少しも有害の作用を來すものでもありませんから、たとへ其效果が怪しいと思ふても手を束ねて見て居るよりも一定の藥劑を用ゐた方がよいかと思はれます、殊に實驗上此等の藥劑の或ものが確に有效であつたと思はるゝ場合も決して少くはありません、又患部に氷嚢を用ゆることがありますがこれも直接效力があるかないかと云ふことは問題でありますけれど、熱のあるところに氷嚢を當てますれば患者が快く感ずるだけでも結構なことであります

又患部と健康部との境界に絆創膏を貼りまして、其粘著力によつて病氣の進行を阻止しやうとする事は屢々試みらるゝことであります。

此病氣に內服藥として種々のものが試みられて居りますけれど、餘り效力はない樣であります。其他發熱頭痛等に向つて、又胃腸障碍に向つて適宜の處置をすることは大切でありますけれど、此等は悉く醫師の手によつてのみ行はるゝことでありますから爰では省略致します。

丹毒は黴菌が皮膚を傳ふて擴がるものでありますから、其れを防ぐ爲に、患部より少し離れた健康の皮膚に二%の石炭酸水を注射してそれより先へ黴菌が行かぬ樣にするとか、又は皮膚を亂切し其處を昇汞水で洗滌しまして、それによつて黴菌の進行を防止するとか云ふことは屢〻試みられたことであります然し其效果の有無は明らかでありません、又近來は丹毒血清が製造販賣せられて居ります、これは常に有效と申す程ではありませんけれど、時としては病症に好影響を來すことがありますから試用せらるゝ價値があるものかと存じます。

其他常に患者の健康狀態を注意して體力を衰へさせぬ樣にすると云ふことは何よりも大切なことであります。

種族衞生と婦人の覺悟

東京顯微鏡院副院長　石　原　　巽

今日まで行ひ又行はれつゝある衞生は、吾々人間が生存して行くに直接に關係する衣食住などにのみ重きを置たので有て、此等のものに障碍のなからんことに努めたのでありますが、今茲に云ふ種族衞生と云ふのはたゞ之等の事柄に關するに止まらす、更に一歩を進めて人間の種を改良して優良なる人間を創ると云ふことを講究するものであります。近時識者が國民變性の現象に注目するに至りました結果、色色の調査や研究を進むるによつて此の學問も大に進歩發達して來た次第であります。蓋し國民の變性と云ふのは不健康者の增加とか、人々の減少、低能者、不能力者の增加、又は授乳不能者の增加、授乳者の

減少、乳兒死亡の增加、不妊の增加、受胎數の減少などの事柄で、此等の事實は歐米先進國に於て幾多の統計により立證されたもので、我が日本に於ても既に斯くの如き事實の認めらるゝに至りしは誠に警戒すべき事件で、各人各箇が愼重なる注意により此の弊害を除却することに努めなければ、將來如何ともなし能はざるに至る事であらうと憂慮に堪へぬ次第であります。余は先年獨逸に遊び、恩師グルバー先生に就き此の問題につき幾多の指導を受くるに及び、斯學の極致は正に是れ國家百年の謀にして、世界に雄飛する優勝國となるも廢頽衰耗の亡國となるも、一に懸て此の問題の講究實施如何にあると云ふことを深く感じたのであります。彼の絕世の衞生學者ペッテンコーフェル先生の後繼としてミュンヘン大學に教鞭を執れるグルバー先生が、夙に此の點に著眼して其蘊奥を極められ、斯學の「オーソリチー」として重きをなせるは、實に明敏なる先生の卓識によるものと大に敬服致したのであります。抑々種族衞生の科學的研究は、基礎を遺傳學に置き、之れに各方面の統計的觀察を配し、國民變性の現象を防がんとするものでありますが、實際的問題として應用せらるべき區域は極めて廣汎なるもので、老幼男女を問ふものではありませんけれども、玆には婦人に關する一二の事柄に就て申述たいと思ふのであります。

第一生殖の攝生　生殖は性慾の本能に對する副產物と心得、深き注意を拂はざるときは、國民の變性は忽ちにして捲土重來の勢を以て蔓延することでありませう。苟も生殖は性慾本能の主產物で有て、國家の隆興は其の基礎を國民の繁殖力に俟たざるべからざるものである。以上は、其の數量のみならず、其實質に於ても優良なるものを要求するので忠良なる國民としては濫りに生殖を營み種族を劣惡ならしむるが如きは大に愼まざるべからざることで、所謂貧乏者の子澤山の結果は或は初生兒の死亡率の增加となり、低能、不能力者を增加し、虛弱なる國民の

繁殖を來し、國家は常に此等を救濟するの手數と費用とに忙殺さるゝに遑なきに至るのであります。實際に於て生殖は吾々自身の後繼者を創る重大にして神聖なる機能なることを眞面目に理解すべきもので彼の正宗の銘刀は、齋戒沐浴して心身の邪氣を拂ひ鍛錬に鍛錬を積んで初めて稀代の銘刀たるを得るので、況や吾々の後繼者を創るに當りては、苟もせざる底の眞摯なる自覺を切に望んで止まざる譯であります。

第二結婚の義務　男子丁年に達すれば其の體格健康優秀なるものは兵として徵せらるゝ以上は女子も亦其の成熟の期に至つたならば、其の健康優秀なるものは結婚の義務を負擔すると云ふのは、男子の夫れに置ける義務と同樣なることと信ずるのであります何となれば、健康優秀なる女子は其生殖能力に於て種族衞生學上最も樞要なる基をなすものでありますからして、或は早婚に失し、又は晩婚に陷るが如き不調和の事柄を防遏するは最も必要なることと同時に、一面に於ては其の體質遺傳をも顧慮せず結婚せんとするが如き場合には、國家としては之れに對し何等かの制裁を爲さんことは最も時宜に適したる事で、余は一日も速に斯くの如き事實の實現せんことを望むものであります。

第三妊娠の制限　健康優秀なる女子に對して結婚の義務を負擔せしめんとする以上は、虛弱なる婦人に對して妊娠の制限を加へざる可らざるは亦當然の道理であります。實に體質虛弱なる婦人に對して乳兒哺育の大なる負擔を課するは一面に於て生物の虐待を意味する譯で、余は此の意味に於て體格虛弱なる婦人に向ては結婚及妊娠の制限を謀らんとするものであります。斯くの如くして體質優秀なる女子には專心生殖能力を發揮せんことを望むものであります。然りと雖も子は三界の首枷の眞理を理解し、粗製濫造の弊に陷らざらんことは勿論のことであります。

第四妊婦の保護　妊娠時に於ては最も心身に變調を

來すものなれば、其の精神と身體的機能の異常に細心なる注意を拂はざれば、屢々後遺症として幾多の症狀を發現するの虞れを保し難いものであります。是れ健康優秀なる婦人に有ても、妊娠時に細心なる注意を要する道理にして、況や虚弱なる婦人に於ては更に其の注意を愼重にせなければならぬは今更事新らしく云ふ迄もないことであります。殊に妊娠時に於ける母體の心身狀態が、如何に其の胎兒に影響するかは種族衞生上に於ても大切なる事項で、日本及支那に在ては未だ今日の如く科學の進歩せざる時代に於ても、業に已に受胎婦人の心身狀態が其の胎兒に影響する所大なるものあることを慮り、妊娠中胎內敎育に注意し、一擧一動も苟もせずして惡影響の胎兒に及ばざらんことを警戒したのは甚だ合理的の事で有たのであります。斯くの如く妊婦の攝生及遺傳の事柄に就ては、宜しく適當の方法と形式を以て之れに備へなければならないことであります。

結論。　種族衞生の眞髓は最も優良なる子孫を創ると云ふのが第一の主眼で、國民が追々劣惡なる體質に變遷することを防ぎ、社會各方面の事情とを照し合せて、國民健康の增進を圖るに有るが故に、其の性と年齡或は階級等に從ひ其の守るべき道は多種多樣では有りますけれども、婦人は其の最も樞要なる位置を占むるが故に、充分なる覺悟が必要なると同時に、社會からは多大の囑望をされて居る譯でありますから、性慾の攝生の如きは必ずしも婦人のみに強ふべきものでないのは勿論でありますけれども、妊娠と云ふ大なる負擔を有する側から眞面目に警戒攝生して、此事は自己の健康維持に就ての權利主張だと解釋し、實際方便としては配偶者の趣味轉換又は向上を計ること等も此の目的を遂ぐる一の補助法であります。又健康優秀なる婦人の結婚の義務と云ふことも、實際天理で有て、不完全なる社會組織は延いては不適當なる婦人職業問題を喚起し、或は不徹底なる文學思想にとらはれ、或は美容保護の目的により結婚を避忌するが如き惡弊を生じ、亦は晩婚に

陷るが如き傾向は種族衛生學上最も警戒すべき事柄で、有識の婦人は大に反省を要することであると信じます。斯く優秀なる婦人の結婚は之れを大に奬勵せなければならないと同時に、一面虚弱なる婦人には須く之れに制限を加へる必要があります、で又妊娠時には其の健康の如何に關せず充分なる攝生を要するものでありまして、其の母體の心身狀態が胎兒に如何に影響するかを思へば、宜しく玆に意を致して優良なる子孫の繁榮を期し、國家百年の基礎を確立するは正に我が婦人の雙肩にあることを覺悟せられんことを望むものであります。

衛生思想の特に女子に必要なる理由

莊司秋次郎

苟も生を人界に享けたる以上、可及的長壽を保ちたい。而も健康にして長壽を保ちたい。又この世に有爲にして善良なる人として、健康に長壽を保ちたい。これは男女を問はず萬人の願であります。

勿論人間は死亡する。その死の原因に就ては未だ全く解らぬ點もありますけれども、少なくとも地上に人ありてより以來の經驗に據れば、人は何れも普通百歲内外、否、百歲以下で死亡することになつて居ります。それで今日は昔のやうに不死の藥を求める人は餘り無くなりましたが、矢張不老長壽の方法に就て研究されます。即ち衛生學の一部分、或は狹い意味の衛生學と云つたやうなものであります。それは大抵先づ人間の身體は、その解剖及び生理學の上から見て、何うもさう早く老衰したり、死亡したりする理由が無い。何れ死亡するものとしても、所謂不老長壽で、少なくとも百歲位までは健全で、眞に天壽を全うして眠るが如く自然の死を遂げる筈であると云ふ立場から出立して、それであるのに不老長壽の反對、即ち早老短命の人が多くて天壽を全うするものゝ少ないのは何う云ふ理由かと詮索し、その

早老短命の原因を取除き、或は可及的その害を豫防すると云ふ、これが先づ不老長壽法であります。そこで人をして夭折せしめ短命ならしむる原因として今日まで數へ擧られたものは隨分澤山あります。先づ第一には新陳代謝、卽ち身體を維持する爲に榮養物を攝取、不要になつた物を排泄、その均衡が正當に保たれぬ、これが老衰、早死の原因であると云ひ、或は頸筋の處、卽ち延髓と云ふ部分が脂肪に變つて、大切な神經の成分が少なくなる。さうすると此部分は腦と脊髓との聯接部で、種々大切な中樞の在る處であるから、身體全體の生理に狂を生じて老衰の狀態になるのであると云ふ。或は又腸の内に居る大腸菌が一種の毒物を生產る、それが絶えず血液の中に混る爲に、身體の細胞が害を蒙むり、特に血管などが硬く脆くなつて早老夭折を來すのであると云ひ、其他尙ほ種々の事を唱へますが、孰れも身體自身の内に原因があるのであります。第二には虎列刺とか窒扶斯とか云ふやうな急性傳染病を起す所の黴菌、又結核、黴毒と云ふやうな主に慢性に而かも絶えず非常に廣い範圍を荒しつゝある所の國民病、否、人類病とも稱すべき惡疾、斯樣なものが外から人體を襲擊して來る。その他地震、洪水、電擊、饑饉と云ふやうな天災地變の外に種々樣々の災害がある。第三には人智が啓け文明が進むに從つて、腦や神經を害することが多くなる、卽ち精神の働きに故障を起して來る、それに又强酒、惡酒が手傳をし、淫蕩惰弱の風が身心を腐らし、益々以て早老病死の因となるのであります。

以上の諸原因には輕重の差、直接間接の別はありませうが、何れも人をして早く老いしめ、早く死なしむるに足るものであります。恐らく唯一の原因のみに罪があるのではなく、右に擧げた數種の原因或は總ての原因に由て老と死とを致すのが人類の常であらうと思はれます。

右は人類一般、男女を通じて蒙むる所の打擊であります。或は自ら招く所の害惡であります。それで苟

も此の生を完うせんと欲するものは何人に限らず之を豫防し、之を免がれ、少なくとも可及的その害を少なからしむるやうに努めなければなりませんが、玆に男性と女性との差を認めなければなりません。此事を詳細に論じますのには男子と女子との解剖學及び生理學上の差異、又教育、風俗習慣、一般の生活法上の相異等を眼中に置いて論じなければなりませんが、今これを詳しく申述ぶる遑はありませんから、只大體の上から見て、女子は男子よりも一層衛生を重じなければならぬと云ふ理由だけを申上げることに致します。

極幼少の時分、即ち哺乳兒時代には男の子よりも女の子の方が育て易いと云ふことを申しますが、これは實際さうであります。男の子の方が女の子よりも多く病氣に罹り、又多く死亡する傾があります、その原因はよく分かりませんが、事實であります。それから又老人期になりますと矢張女の方が男よりも割合に死亡が少なくなります。これにも種々複雜な理由があるのでありませうが、女の方が男よりも危害に逢ふことが少ないと云ふ事で以て大部分說明がつきます。それで幼時と老人期に於ては寧ろ男子よりも安然の方でありますけれども、漸次小兒期を過ぎて、青年期に入りますと、女子の方には種々の危險が多くなつて參ります。

第一には初經、即ち月經が始まります。此時期には身體並びに精神上に著しい變化が起りますので、特に氣をつけなければなりません。小兒期には何事もなく育つて參りましても、此の時期になりますると、種々の神經症狀が現はれる、殊に神經病、精神病などの遺傳があるとか、素因があるとか云ふ場合では著しくそれが現はれて來るものであります。

次に小學校以上の學校である。人間の知識を進歩させると云ふことは、惡いこととは思はれないが、人間の身體の生理を度外視し、或は忘却して空想に繰つられて居るやうな教育であれば、實に有害この上もないことで、眞に人の子を賊するものである。左

様な誤つた教育の結果は實際に現はれて來るから爭はれません。例へば犬が何うしたとか、猫が何と言ふたとか、西洋の子供の言葉などを少々稽古致しましても、その何の役にも立たぬは申迄もありませんが、近眼の如き不治の病氣が起る、理化學と申した所で初歩の初歩、勿論何の役にも立たぬは宜しいと致しましても、毎日使用して居る電燈や、臺所の瓦斯さへ何うなつて居るのか、如何に取扱ふべきかさへも御存知がない。美文とか云ふやうな變な文章めいたものは眞似ても、普通の禮狀が一本滿足に書けない。萬事この調子が數年を費して所謂教育されるか或は教育を受けて、卒業した結果、その間或は子守をし或は母親の手傳のみをして居つた所謂無教育の娘に較べて、何一つ優つた事がない、普通の家庭に於て立働かすれば萬事落第である。上流の家庭なればうまく治まると云ふかも知らぬが、これも亦頗る疑はしい。若し斯様な教育が得意氣に行はれ、尚も中流以上の家庭の娘は是非此の如き教育を受ける必要があり、或はその愚なる事を知りつゝも見えに又は一の嫁入仕度として入學し卒業しなければならぬと云ふやうな虚假な時代がありとすれば、これは妙齡の女子にとりて第二の災厄である。身體の爲にも精神の爲にも有害である。斯様な時期を幸に健全に通過する爲には女子は男子よりも餘程特別に衞生を重じなければ困難である。先づ近眼、神經衰弱乃至「ヒステリー」、肺尖加答兒と云ふ位の病氣は普通の事で、性慾上の墮落、延ては自殺と云ふやうな現象もこれから湧いて來るのであります。

第三は結婚問題、これは男女共に精神上に劇しい感動を惹起す問題に相違ありませんが、別して女子にとりては一生の苦樂、幸も不幸も此處に分かれるのですから、是ほど重大な問題はない、從つてその前後の精神は非常に興奮するので、身心健全にして溫良貞實著なる教育と修養とを經て居るにあらざれば容易に精神錯亂の狀態に陷り、少なくとも自ら確乎たる分別がつかぬものであります。その複雜なる婚

姻關係の中心に立つて、能く圓滿に、目出度く幸福なる結婚を取きめて誤らざらん爲には精神の健全、更に卒直に云へば腦神經系統の健康と云ふことが極めて大切な要因となるものであります。

第四に既に人の妻たり、一家の主婦たる位置になりますと、家政上種々樣々な責任を生じて參りまして頭を惱ます事が多い。男子は家の外に於て活動して失敗することがあつても、家庭に於て安慰を得、又大膽にその事業を他に轉向して局面を新にすると云ふこともありますが、女子にはこれは容易でない、自分の失策は勿論、家族の失敗までも皆身に掛つて來る、而かもその有形無形の損害は長く創痕を留めて、容易に已の身を去らぬ傾があります。それで只さへ感情の鋭敏なる婦人は終日家に在て斯樣な自他内外大小種々の煩累に身心をたしなめられる、實際四十歲前後の我國の婦人の容貌は甚だ憂愁苦惱の色が多い。精神に異常を來すことも多い。此等の事實に鑑みても我國の婦人は今一層玆に自己衞生上の工夫を要することゝ思ひます。

第五に妊娠分娩育兒と云ふ大役があります。これは申迄もなく、身體竝に精神上に極めて著しい變化を起すものでありますから、男子よりも特別に衞生上の注意を要することは勿論で、古來特に產婆と云ふものがあつて世話を致しますが、この妊娠分娩產褥育兒と云ふことは單に女子一身の衞生ではなく、實に一家一國、否人類全般に關係する所の最も廣大にして最も根本的の衞生問題でありますから、婦人衞生に關する事柄は悉く此處が燒點となるのであります。以上縷述致しました種々の注意も、要するにこの妊娠分娩產褥及び育兒と云ふ婦人の大任が完全に理想的に果されんことを熱望しての事に他なりません。女子が極幼少の時より、否更に遺傳的の關係にまで溯つて、その受け來つた所の敎育、自ら行ひ來つた所の衞生的生活は、善惡共に玆にその結果を示して來るのであります。而してこれが實質的に一國の盛衰興亡に關するものとすれば。衞生思想の特に

女子に必要なる所以は極めて明白であります。然るに現今我國の婦人の衛生思想は決して發達して居るとは申されません。少なくとも歐羅巴諸國に比して甚しく幼稚の域にあることを認めざるを得ぬのであります。依て、せめては衛生は特に女子に必要であると云ふことだけでも大聲疾呼する必要を感ずる次第であります。

育兒

幼兒の腸重疊症

莊司秋次郎

腸の重疊症と申しますと大變難かしいやうな病名で左様な事は素人の知らぬでも宜い事だと一概に跳付けられさうでありますが、これは案外小兒に多い然かも極めて重大な病氣でありますから、その概略を申上げて御子持の方々の御注意を願ふ次第であります。

腸の重疊と申しますのは名の如く腸の一部分が、その下部の腸管内に入込むで疊み重なるのでありまして、その部分に依て各名稱を異に致しますが、何れの部分に起りましても小兒は急に顏色が惡くなり、手足が冷え、泣叫び、嘔吐をする、而して通じは全く止まつて、僅かに粘液に血液の混じつたやうなものが出る、その中に漸次腹部が膨隆れて來ると共に小兒は衰弱して虚脱に陷り、大抵二三日で死亡するのが常であります。

斯様に申述べて見ますれば、此程の大病なれば素人にも直ぐ分かるから、必ず醫師の治療を受けて手遲れにするやうな氣遣はなささうに思はれます。所が實際に於てはなか〳〵さうは行きません、殊にこの病氣は一歳以下の小兒、卽ち哺乳兒に多いのでありますから、常に小兒を取扱つて居る專門家でなけれ

ば普通の醫師でも往々診斷を誤ることがある位のものであります。依て今その危かりし一實例を擧げて御參考に供します。

と申しますのは、先日私が醫學博士宮本叔先生に御目にかゝつて四方山の御話を致しました時に、兎角自分が病氣をやつて見ぬと人の病氣についても眞實の心持が分からぬものであるが、小兒の病氣の如きも、自分の小兒が重病にでも罹つて見ると、初めて斯う云ふものかと云ふことが今更の如く感ぜられると云ふ御話で、御自分の御子樣か腸重疊を起された時の模樣を委しく御話被下て、幸に平癒されたが、これは實に危機一髪と云ふ場合に臨むから、世の親達にも少しく知らせて置きたいと思ふ。尙ほ博士夫人も斯樣な危ない事があるから、機會があつたならば婦人衞生雜誌などへも其の模樣ご注意を書いて置いたならば、何時又人の爲になるかも知れぬとの思召であると承はりましたので、私は博士から伺つた御話の大體を記憶に存するまゝ玆に御紹介することに致しました。

それは昨年の夏の事で、先生の末の御子樣(八箇月)ですが、その日は何時のごとく機嫌好く、にこ〳〵して遊んで居られたさうですが、午後になつてからですか、いまの今まで機嫌好く何事もなかつた御子樣が急に變な顏貌をなすつて、何とも云へぬ力の無い、哀れな聲を出して泣初められた、而して御乳も欲しがらず、愛してもなか〳〵機嫌が直らない。そこで夫人は小兒の泣くのは決して無意味ではない、殊に變つた啼泣をするには必ずそれ〳〵何かの原因があるものであると云ふことを考へられて、注意して御覽になつたが、多少腹痛でもあるのかと思はれるだけで、別に大して異つた所もお認めにならぬ。併しその御容子が如何にも變なので、博士に訴へられ、そこで博士が御診になつたが、矢張前述の有樣で、格別他覺的に大した變狀を御認めにならなかつた、唯注意して腹部を觸れて見ると臍部より右上方の部に一個の稍々硬い物が手に觸れる、恐らく便の

塊まつたものであらうと思はれた。その中に再び今迄の症狀が雲の晴るゝが如く消え去つて、顏の色も直り、愛せばにこ／＼笑ひ出し、御乳も盛に召上ると云ふやうな譯で、益々何うしたのか御分かりにならなかつた。而して暫くすると又前のやうに急に元氣が無くなつて、恰も咽喉をしめらるゝかの如く、細く哀れげな聲を出して御泣きになる。併し暫くすると復び何事もなささうに機嫌が好くなるので、兎に角時々お腹に痛を覺えるものらしいが、其頃多少流行して居た疫痢などとも思はれず、如何にも不思議に思はれたが、御用事がおありになつて博士は外出されるので、御留守の間に一度御實兄の宮本仲先生に診察して頂くやうに言置いて出掛けられた。そこで夫人は宮本仲先生に來診を請はれました。御承知の如く宮本仲先生は婦人衞生會の特別贊成員で入らせられて、嘗て本誌本欄上に於て屢々有益な御話をなすつて被下つたこともありますから、會員の方方は御承知のことゝ思ひますが、全く彼の御話の通り、隨分やかましい、然し何處までも親切な先生でありますが、御診察になつて、これは何うも腸重疊の疑がある。果して腸重疊とすれば、一刻も早く外科手術を施さなければならぬ事があるから、その覺悟で充分注意を怠らぬやうに、尚ほ自分はこれから會があつて、餘り遠くない學士會事務所に行つて居るが、其處には御親友の外科醫岡田乾兒先生も御見えになる筈であるから、若し變狀が起つたならば直らに電話をかけるやうにと申置かれて御歸りになつたと云ふことであります。それから宮本博士が夕刻御歸宅になつて、仲先生の御診斷並に御注意の事柄を御聞になつて、兎に角排泄物でもある場合には必ず取つて置くやうにと御命じになつて、御來客があつたので二階で御話をして居られましたが、午後の八時頃に何か排泄物があつたと云ふので、それを御覽になると主に漿液と粘液に僅か桃色になるほどの血液を混じたものであつたさうであります。そこで愈々腸重疊の疑が強くなり、直ちに電話を以て仲

先生と岡田先生と御同伴で來診されるやうに御依賴になりました。岡田先生も廻腸結腸の重疊と診斷せられ、三先生御協議の上、兎も角も高位灌腸と云ふて、腸に多量の水を送り込む方法を一つ試みなければならぬと云ふことになつて、直ちにその法を行ひますと、間もなく今迄の症狀頓に去つて、腹部の硬い物も無くなり、御子樣は見る／＼御顏の色も良くなり、元氣づいてお腹もお空になつたものと見えて盛に御乳を召上りながら、朝と同樣上機嫌で御遊になるやうになり、これで以て跡形もなく全快なされたと云ふことであります。

此の御話に依て見ますると、この危險極る腸重疊症も、その初めはなか／＼診斷のつき難いものであると云ふことが分かります。流石に宮本博士並に同令夫人の如き注意深い方であればこそ幸に御子樣の命を御拾ひになつたやうなもの丶、一面に於ては宮本博士ほどの大家であつても、小兒の病氣は一寸診斷を下しかぬるものであると云ふ證據であり、又斯樣な一見何でもないやうな症狀であつても、小兒が變な樣子をし、變な泣方をして原因の明かでない場合には、是非老練な小兒科專門の醫師に診察を請はねばならぬと云ふ敎訓であります。若し右の如き場合に診斷を誤り、單純の消化器障碍、或は赤痢又は疫痢などと云ふ疑で適當の療法を誤り或は遲延しましたならば、百に一つも助かりません、必ず小兒は非常の苦痛の下に死亡するに相違ありません。既に誰が見ても診斷がつくほどの時期に至ては最早外科手術を施しても多くは結果が良ない、然るに右の實例の如く適當の時に適切な療法を施せば、さしも險惡なる病症も、掌を翻すが如く全治することが出來るのでありますから、御子樣を御育てになる方々は何卒斯樣な場合にぬからぬやうに御注意なされて、百年の悔を遺されぬやうに希望して止まぬのであります。

小兒の汗疹

體內に生ずる不必要の成分或は毒物を體外に排泄する爲に尿と同じやうな意味で汗は絶えず皮膚の表面から發散して居ります。又體溫の調節の爲に出るものであります。只出る後から後から直ちに水蒸氣の形になつて發散して居るので眼には見えません、地面から立昇る水蒸氣が飽和し、寒冷に逢へば雨となり露となつて現はれると同樣、皮膚から發散する水蒸氣も多くなれば汗として現はれるのであります。その多くなるのは如何なる場合かと云へば、先づ氣溫の高いとき、激しく運動したとき、又暖衣飽食、殊に熱い物を食べたとき、其他種々の病氣、例へば肺結核、心臟の衰弱、或は神經の病氣、又精神感動等に由て多くなります。

何れの原因に致しましても劇しく發汗する場合にはその刺戟に依て汗物が出來ます。殊に小兒は汗疹を生じ易いものであります。これは元來小兒の皮膚の軟弱な所へ以ていつて、或は著物を著せ過ぎ、妄に室内の溫度を高くするやうなことがあれば勿論小兒は汗をかき、それをそのまゝにして置けば汗は分解して皮膚の刺戟となり疹を生ずるのであります。尤も此の如き人工的の不都合はありませんでも、これから夏になれば、裸にして置きましても小兒は往々汗疹を發するもので、殊に多汗症と云ふて、元來普通の人よりも汗の多い性質のものは、隨分汗と汗疹の爲に惱まされるものであります。

大人は汗が出れば直ちに拭き、或は洗ひ、種々適當の方法を講じて怠りませんが、小兒はなか／＼さうでありません、手或は著物の袖を以て拭くと云ふよりも擦つて濟して居るのであります。それで夏は特に皮膚を清潔に保つやうに世話をするか、稍ゝ大きな子供なれば皮膚を清潔に保つやうに注意を與へてその習慣をつけることが必要であります。

これは單に汗疹に苦しませぬ用心の爲のみではありません、汗疹が額や面或は陰部に生じますと、なか

なか治癒りません、それに往々瘙痒を覺えますので小兒は手で搔爬ますから更に濕疹を生じて益〻不良の狀態となり、屢〻不機嫌になり、或は安眠を妨げられて衰弱し、所謂夏まけの症狀を甚しくするものでありますが、さなくとも小兒が發汗して居りますと、遊ぶ間に塵埃が皮膚に附著し、塵埃で壁を塗つたやうな面を、更に不潔な手で以て絕えず擦りますから、種々の眼病や皮膚病を起す原因となり、衛生上常に危險狀態に在ることとなります。

斯樣な次第でありますから、小兒を汗臭くして置いたり、汗疹を生ぜしむる如きは、親の恥たるのみならず、實際その小兒の健康上にも又家庭の衛生上にも頗る有害な事であります。

依て小兒は可及的涼しいやうにしてやるは勿論、發汗しましたならば、そのまゝに放置せず、夕方になつてからなどと手數を格むことなく、可及的早く行水を使はせるとか、少なくとも濡れた手拭で淸潔に拭き淸めて、特に汗の多い小兒には亞鉛華澱粉の如きものをはたいて遣るやうにしなければなりません。

衛生育兒　茶話（二）

石橋臥波

◎自分の知人に某郡長がある。その令孃が、まだ三つ位の時のことであつた。雛のお節句の日に、奧樣がお煎りをして、皆のものに食べさせられた。その日は、ちやうど、來客があるので、奧樣は中々忙がしい。その間に、例の三つばかりの令孃は、黑豆の煎つたのが、甘いしかつたものとみえて、母さまのところで、もらつて食べたり、下女にねだつて食べさせてもらつたりして、隨分澤山の煎り豆を食べたのであつたが、忙がしいので、誰も、それらのことには注意せなかつたのであつた。ところが、夜分になつて、例の令孃は、俄かに發熱して、苦悶し始めた、しかし、その原因が不明である。早速醫師を請

じて診察してもらふと、腹部が大鼓の皮のやうに張り切つて居る。色々世間のことを詮索するうちに、例の煎豆のことに思ひ當つて、それから、種々の手當をして、やつと、危ふい一命を取り止めることが出來たのであつた。煎豆が胃に入つて、胃液、水分を吸收して膨脹してためであつた。他の食物の過食は、手當が比較的容易であるが、豆の煎つたのは中中困難なもので、之がために、往々、死に至ることがあるのであるから、母たる人々は、特に注意せねばならぬ。幼兒には、よくあることであるが、意に適したものは、腹は一杯になつても、目は、飽くことを知らず、それに、母親のこころでも、姉のもとでも、父親のこころでも、下女のこころでも、ねだつたり、與へられるまゝに口に入れる。これがために、往々過食して下痢を起すやうなことがあるのである。

◎これも小兒の過食の例であるが、閑に植ゑてあつた西洋苺の實を澤山食べて、俄かに痙攣を起したので、醫師を招いて手當をしてもらつたが、灌腸しても、思ふやうに效驗があらはれないで、遂に死んだのがあつた。これは、單に苺の過食のためのみでもなかつたであらうが、幼兒には、過食のために——乳汁を與へ過ごしたり、その他の食物を與へ過ごすために、死に至らしめたり、消化不良を惹起したりすることが多いのであるから、若き母たちは注意せねばならぬ。乳汁の不足のために死んだ幼兒はないが、乳汁が多く出過ぎて死んだ幼兒は、少なくないと昔からいふが、よい戒めである。

◎熱度の高いのは、醫師でも心配するのであるから素人が熱を下げることをつとめるのは無理もないことであるが素人は、その發熱の原因を知らずに、無闇に解熱劑を服用する傾があつて、時によると、之がために、却つて害を後に貽すことがある。さる家の三歳になる幼兒が麻疹にかゝつて、熱が大分高くなつて、外部に發疹しやうとする時に、しきりに賣藥の解熱劑を服用させて、遂にそれを妨げたので、

却つて豫後を不良ならしめたことがあつた。大人でも、少し寒冒にかゝつて熱が高まると、醫師に診察を乞はないで、解熱劑を多量に服して熱を下げさへすれば治癒すると速了して居るやうであるが、これも注意すべきことである。相當に教育のある者でも寒冒の妙藥は解熱劑に在りとして、ピリンや、ヘブリン、少し頭痛がすると、アスピリンを濫用して、只さへ蒼白な顏色が、チアノーゼを起して一層蒼白になるのは、よく見る例である。發熱は、造化が、吾人人類に、身體の故障を警告する靈妙なる作用であるから、少しでも、この警告に接した場合には、これを除くことに注意せねばならぬが、しかし、それには、各〻原因があるのであるから、先づその原因を極めて後に、之を除くやうにせねばならぬ。而して、人によつては、聊かの故障に、直ぐ熱が高くなる者もあり、之に反して、滅多に發熱せない者もある、これらは、身體組織の如何にもよるのであるが或程度までは、精神にも關係するものであるから、つとめて平氣で發熱を妨止する習慣をつくる工夫も必要である。

◎庚申塚の山田勝太郎氏夫人鶴子といふは、曾て、自分が大患にかゝつて、醫師も手を切つたのであつたが、どうしても生きねばならぬと決心して、心神を凝らした結果遂に全治した、それから四年の後、精神に一種靈妙な力があらはれて、他人の病氣をも容易に治癒せしめるやうになつたといふので、近頃は、沼波文學士、栗原文學士等を始め有名な人々までが、それを信じて居るといふことである。女の一念岩をもとほすとは昔からいふことであるが、精神の力も或程度までは、疾病に對しても效驗があるのは不思議はないが、これによつて、すべての病氣を根本的に治癒し得るものではない。山田夫人のいふところは、至誠神に通ずれば如何なる難病も立どころに治癒するが、まだ至誠神に通ずる域に達せないものは、その效驗があらはれない。而して、疑ひを起すか、至誠の度が減退すれば病症も全治はせぬと

いふのは此の精神力が病氣を根本的に治癒するものでないことを證言したものといつてもよいのである。世の婦人たちに望むのは、精神的衛生を重んずると共に藥餌的の治療を忽かにして、他日救ふことの出來ないやうな病症にすゝめないことを心掛けてもらひたいことである。

◎昔、物徂徠が病氣にかゝつたので、松岡玄達といふ醫師が、それを診察して、藥を調合して、包紙に

調合進中丐藥湯。　生姜一片煎如常。
平生食物肝要事。　唯許大根與午蒡。

といふ狂詩を書いて送つたといふことであるが、今のお醫者も、患者に與へる藥袋に、口調のよい、わかり易いやうに注意を書いて置いてもらひたい。さうすれば、飲み藥と塗り藥を間違へたり、食前と食後と取り違へたり、鐵劑と茶と一緒に飲むやうなことは無くなるであらう。

家庭衛生

夏の害蟲に對する防禦策戰

夏は單に熱いだけでも苦痛である、身體も精神も緊張力を失なつて衰弱するのに、總て周圍の狀況が衛生上危險の度を增して來る。それに種々の害蟲が跋扈して吾人を苦しめる、その中でも最も普通に、最も多く吾々に仇をするものは蠅と蚊と蚤との三種である、此等は單に五月蠅のみならず、搔痒いのみならず、各々傳染病の媒介をするので徐く以て容赦がならぬ。

この三種の蟲の中でも蠅は最も不潔なもので、蠅の居るところは不淨な所である、不淨な所には必ず蠅が居ると云ふくらゐに汚らはしい不潔な蟲であつて

殊に馬糞、總て生物の屍骸などを繁殖發生の地として、また好んでこれらの物に群集し、こゝを去つて又所々不潔物をあさりながら人に近づき臺所から食卓、食物の上、私共の最も清潔を貴ぶ所にも遠慮會釋もなく飛びまはり舐ひまはる。これが最初如何なる所を流浪徘徊してきたものであるかと一々取調べたならば、實に嘔吐を催すに相違ない。それが單に腐敗物、汚物と云ふだけならば、普通のキタナイと云ふ意味だけですみもしやうが、さて、その腐敗物汚物の中には赤痢も虎列刺も窒扶斯もないとは限らない、實際試みに蠅一疋捕へて、黴菌學の研究に用ゆる新しい培養地の上を匐はせて見るならば、數日の後には種々樣々の恐るべき黴菌が、蠅の匐ふた足跡に繁殖する。これを見たならば、食物は勿論のこと、室内何れの場所にも、かやうな不潔蟲の侵入を許す譯にはまゐらぬ、然し遺憾ながら目下の日本造りの家屋に於ては、夏に蠅の侵入を防ぐと云ふことは殆ど出來ないことである、そこで、止むを得ぬから蠅取器、モチなどを以て捕へ、又家の外に臭氣のあるものを措てそこに呼び集め、一時に撲殺する等あらゆる手段を講じなければならぬ、殊に臺所と食堂だけは窓に金網を張るとか、蚊帳の如きものを張るとか、尠くとも料理し食事をする際には豫め、蠅を悉く驅逐することが必要であらうと思ふ、虎列刺赤痢、窒扶斯等の恐るべき傳染病を媒介し流行させるものは、大抵この蠅の仕業であることを忘れてはならぬ。

次に蚤、この蚤と云ふものは、衣服の間に侵入して皮膚を刺し、不快な疼痛性搔痒の感を起させ、その嘴を以つて刺した後には小さな赤色の傷痕を暫時止むる位ゐで、別に不潔とも亦危險とも思はぬが、これが矢張危險なものとなつて來たと云ふのは「ペスト」流行この方の事であるが、蚤には澤山種類があつて、その中に鼠の身體を定宿として居る所謂鼠蚤と云ふ種類がある。この鼠蚤は人の身體は好まぬけれ共、一寸位ゐは刺さぬとも限らぬ、殊に印度蚤

と云ふ鼠蚤は、犬でも人間でも何んでも構はずに刺すから甚だ以て危險である。危險と云ふのは何故かと云ふと、彼の恐るべき「ペスト」と云ふ病氣は元來鼠の病氣である「ペスト」の流行する前には先づ必ず鼠がこれに罹つて斃れるそれからそろ〳〵人間が罹るのである。それで「ペスト」病に罹つた鼠の血を吸ふた蚤が人に附いてその嘴を以つて刺したならば、「ペスト」菌は人の體内に注射されて、猛烈な勢ひで繁殖して遂にその人を斃すに至るのである。よく輕微な傷を形容して蚤が喰つた程の事と云ふが、かうなると蚤の喰つた創も中々馬鹿にはならぬ、大に警戒を要することである。

殊に夜間小兒の眠りを覺まし、小兒のみならず大人までもこの小蟲のため大切なる睡眠を妨げられ、更に恐るべき「ペスト」などの傳搬をするに至りては小蟲これなか〳〵の大敵である。それで、この蚤も勉めて退治することが必要であるが、これには春期の清潔法施行の後、入梅の前後に一回づゝ疊の下、牀板の間などの塵埃をよく掃除し、疊の裏を日光にあてる、尚掃きとつたごみは塵箱などに入れずに燒くのが一番よい。疊を敷く前、牀板の上には片腦油をきりふきにて散布し、これが乾いた頃に固形ホルマリンを疊一疊の下に二ツつゞ位に入れるか或は「ナフタリン」を散布してもよいが、この「ナフタリン」は臭氣が餘り上品でないが、然しかやうにして疊を敷込むなら餘程のところまで蚤は防げるものである。

次は蚊であるが、蚊も亦惡むべきものである、第一刺れると云ふと實に不快なかゆみを感じ、蚤より長い間、しかも惡るく癢いことは何人も經驗して居る所で、且つ蚤よりも執拗く、場合によると拂ひきれぬ程無數に襲擊して來る所謂蚊軍である、これだけでも充分惡むべき蟲であるのに、更にこれが又種々の病氣を起さしめる。

即ち彼の昔から知られて居る瘧（オコリ）、即ち所謂「マラリヤ」と云ふ病氣は「アノフェレス」と云ふ一種

の蚊に依つて媒介されることが分かつて來た。又「フイラリヤ」蟲病と云ふて、九州地方に流行する病氣で、熱が出て陰部や足の皮が厚くなり、又白色の尿を出すやうな奇妙な病症を呈する病氣も矢張蚊に依つてその「フイラリヤ」蟲の仔を人の身體に注射されて起るのである、その他の病氣も媒介されることがあらうと思ふ、依つてこれも又退治しなければならぬ。

これを退治するには、第一溝や水溜を埋めて仕舞へばよいが、さうもゆかぬ時には魚を放養して、その中に發生して居る蚊の前身たる孑孑を食べ盡させるやうにしなければならぬ。繁華な所にはよく防火水桶があるが、この防火水桶の中にも矢張金魚や其他の魚を入れて置く必要があるよく人は樹木が繁つてる所に蚊が多く居るやうに云ふが、決してさうではない、蚊とても炎天に照されるのが辛いから木蔭に逃げ込むのである。墓地附近に蚊の多い原因も樒や花を供へる花筒に水を入れ、それが腐敗し、それに孑孑の發生する爲である。つまり出來るだけ孑孑發生所を造らぬやうにすれば蚊は退治することが出來るものである。

最後に時節柄、もう一つ茲に附加へて置くべきことは、虱の防禦である。近年屢々流行する發疹室扶斯は虱に依て媒介されるとの說が確かになつた、これは今度の歐洲戰爭で實驗された事で、獨逸側でも聯合軍側でも虱退治の爲に腐心して居る。流石の獨軍も虱に對しては一寸ヴエルダン要塞に對した格である。尤も我國は歐羅巴ほどの虱たかり國ではない、極下層の木賃宿あたりに寢泊りをして居る人々でもなければ虱などを携帶しては居らぬが、偶々何うかすると錢湯屋などで貰て來ることがあるから用心しなければならぬ。著物の虱は硫黃でいぶしても「フォルマリン」蒸氣でも殺すことが出來る然れば卵も殺すことが出來る、家庭に於ては軍隊や傳染病院に於けるが如き大仕掛けに又完全に殺蟲消毒するほどの必要もない。只平常淸潔にさへして居れば斯樣なも

のに同居を强請されるやうなことはないが、若し何かの機會で自分の著物或は家の內で發見することがあれば、子を生まぬ中に如何なる方法でも宜しいから直ちに殺して、其の著物は煮るか、强い天日に曝して消毒する必要がある。

白髮染の危險

去る十五日の新聞紙上に次の如き記事があつた。

神田區下宿業某館の雇女小林某(二十歲)は去る八日同町內の理髮店に赴き白髮を染めて吳れと賴みしに、折柄理髮店主人は留守にて同店の雇人某が染上げし所、十五分間を經て頭部の皮膚が痛み出し、間もなく髮の毛がポツ〳〵拔け始め、やがて殆んど丸坊主となつた騷ぎに、半狂亂の態となり、爾來同店に交涉中なりしが、西神田署の取調に依れば、全く藥品を稀薄にせず、其儘用ひし爲めと判り、書類を檢事局へ送らる。

一本の白髮さへ氣にする年齡の女が、それを染めるとて却つて丸坊主にされては半狂亂となるも無理はない。右の記事に據れば藥品を薄めずに用ひた爲と云ふことであるが、元來毛染藥には有毒品が多い。能く染まるもの程害毒が劇しい。私も毛染藥の爲に頭部や顏面が甚しく腫脹し劇烈なる眼炎を起した患者を見たること一再に止まらず、何時も其の取締を嚴重にせられんことを希望して居るものであるが、今又右の如き記事を見て一層これを恐れ惡むものである。右の例は雇人が使用法を誤つたと云ふのであるが、斯樣な危險な藥品を理髮師などに使用せしめるといふのが一體不都合であると思ふ。

理髮店で普通、卽席白毛染として使用するのは多くは「アルカリ」と鉛とを主成分としたものである、卽ち水酸化石灰、煆性「ナトリウム」炭酸「ナトリウム」等と鉛の抱合物を主成分とし、それに硫黃を少しく混じたものがあると云ふことである。これが毛染藥となるのは、つまり「アルカリ」が毛髮を腐蝕して蛋

白性の硫黄を單純の硫化物とし、それが鉛と結びついて硫化鉛と云ふ黑色のものになる爲である。故に斯樣な藥は毛髮の質を惡くすることは申迄もなく、それが皮膚に附著すれば皮膚を腐蝕するは當然のことで、少し强いものなれば丸坊主になるも不思議はない。

又前に銀や鉛の可溶性鹽類を塗つて置いて、其後で硫化物を主要成分とする藥液で染め上げる流義もある、これは注意すれば比較的危險が少ないが、手數がかゝるので餘り流行ない。

一番良く染まつて、一番よく賣れる髮染藥、所謂濡羽色に染まる評判の好い毛染藥には大抵「パラフェニーレンヂアミン」と云ふ毒物を含むで居ると云ふ試驗成績が擧つて居る。これは西洋では毒物表の中に載つて居て、醫師か藥劑師の外は取扱ふことの出來ないものになつて居るのである。此「パラフェニーレンヂアミン」を含むである毛染藥で染上げると、白髮でも實際眞黑に光澤が出て美事である。けれども髮毛の實質を損害することを忘れてはならぬ、且つ一箇月も經てば黑色は漸次剝げて柿焦色になる。それで一度この毛染劑を用うるときは、毛の質を損することを認めても、却つてその爲にこれを使はざるを得ぬやうになる、而して回數を重ぬるに從つて髮の毛は弱くなり、漸次先端が短くなつて來る。のみならず、これが皮膚に附著するときには、人に依て多少相異はあるが、烈しい場合には前の例の如く皮膚が腫脹て丸坊主にもなりかねない。縱令又皮膚に接觸なくとも髮に塗つた「パラフェニーレンヂアミン」は酸化の爲に「ヒノチアミン」と云ふ揮發性の物質を蒸發するので何時とはなしにその中毒を起して來る。その中毒の結果として頭部顏面が腫れ、頭痛を生じ、所々に濕疹を發し、毛髮の脫落を來すのみならず、眼の炎症、喘息樣の疾患、胃の障碍を起し食慾は減じ、爲に身體は瘦衰へると云ふやうな種々の症狀を現はすものである。支那人の阿片煙草にも比すべき惡染毛劑である。然るに此種の染毛劑が、

使用法の簡便なのと、染色も確實で美しい爲に些もよく賣れると云ふことである。其筋に於ては勿論これを取締り居ることゝ思ふが、現にまだポツ／＼この危害を蒙むる人を見受ける所を以て見れば、矢張これを密賣する奸商があるものと思はれる。それが賣れると云ふのは又一面に於て、その害惡を知らず或は知つても前述の如き理由に依て、その害惡を忍んで使用を續ける如き患者もあるからのことである何れにしても此際一方に於てこれが取締を嚴重にすると共に、他方に於ては一般にその恐るべきことを知らずして、白髮を氣にする人に警告を與へなければならぬ。

汗しらずの處方例

これから暑中になりますと何人も汗の出るのに御困りになりますが、殊に御子供衆は額や御臀の邊に汗疹を出かして、見るも苦痛やうであります。これは屢々御湯で顔を拭て汗の刺戟しないやうになされば宜しい譯ですが、尚ほ所謂汗知らずと云ふ類の撒布粉を敲いて置く方が宜しいことは、是亦何人も御承知の事であります。市中で販賣される「汗知らず」は一寸御白粉代用にもなり香氣も好く製造されて居りますから結構ですが、その原料に別に大したものでもありませんから、御家で調合されても宜しからうと思ひます。左に二三つ處方を御紹介致します。

○ 亞鉛華三〇　滑石粉三〇　炭酸「マグチシア」一
○ 澱粉三〇

これは極普通の處方でありまして、何れの「汗知らず」も必ず此中の一二藥を含むで居ります。

「サリチル」酸五・〇　硼酸一〇・〇　酒石酸一〇・
○ 亞鉛華、滑石各四〇・〇

これは搔痒のある時に適當ですが、眼に入ると刺戟致しますから額に撒布するわけには行きません。額際に汗が多くて困る方は左の處方を試みられて宜しからうと思ひます。

「エーテル」酒精五〇・〇　安息香丁幾七・〇　「ワニリン」〇・〇五　「ヘリオトロピン」〇・一五　「ラヘンデル」油〇・五

但しこれは水を招びますから、壜の口を確かりして火に近けぬやうにしなければなりません。又眼に入れば甚く刺戟しますから、之も氣をつけなければなりません。筆を以て薄く塗布のです、直ぐ乾きます。

尚ほ俗間に從來用ひられて居る「汗しらず」或は「汗はね」も適當であります。その處方

天花粉、葛粉、甘草末

右三味を適宜の割合に混和て、布の袋に入れて敲くのであります。

蛤貝を燒きて粉末にし、うどん粉を半分混ぜて布に包みて振かける。

其他、胡瓜の切口にて摩擦する。

桃の葉の揉み汁にて度々洗ふ。

右何れも緩和にして無害、又質に有效の方法であります。

（以下次號）

抄錄

特種の藥效ある日用食品

醫學士　秋の屋主人述（衛生新報）

●大豆　大いに榮養分に富むで居る。日本國中到る處に產し價も安い。豆腐にしても、そのまゝでも良い。殊に糖尿病の人などにも適當に料理すれば食べさすることが出來る。

●野菜　血液を純良にするには新鮮の野菜と果實が有效である。玉葱や蒜には細菌を殺す力がある。大根には澱粉消化劑たる「ヂヤスターゼ」を含むで居る、殊に皮のまゝの生の髓に多く含むで居る。

●麴　非常に多くの「ヂヤスターゼ」を含むで居る。甘いのは「ヂヤスターゼ」が澱粉を消化して糖にする爲である。藥品として著名な「ヂヤスターゼ」も大抵麴から製したものである。澱粉消化の惡い人は御飯に麴を少し混ぜて食れば消化を助けるわけである。

●納豆　納豆は其形は餘り結構ではないが、此中には矢張「ヂアスターゼ」を含んで居るから矢張澱粉を消化する效が著しい。それにまた豆素、即ち蛋白の消化產物たる「ペプトン」を含んで居るから、榮養品としての效能もまた極めて大なるものである。僧侶等の純菜食の社會にあつては、蛋白分は主として豆よりそれを取つたものであるが、殊に豆腐や納豆は其内最も良き食品であつて、我國固有の優良品である、然も其價格もまた廉なる故何人もこれを常用すること

が出來るのであるから、虚弱者、消化不良の人は申す迄も無く、何れの家庭に於ても、成るべく多く之を用ひられたいものである。

●●澤庵　澤庵は非常の不消化物で、單に嗜好品として用ひるの外何等の效無きもの丶如く思はれて居るが、第一に液化を助くるの效は偉大なものである、又便通を催進するの效があるから、我々米食人の副食物としては非常に有效な者である。

●●甘藷　藷類は總て纖維の多いものであるか、其腸内を通過する際腸壁を刺戟して便通を利するの效ある。

●●砂糖　砂糖は食品としての外に總ての加答兒に對して消炎の作用を有するもの故、氣管枝加答兒等に特效あり、また咳嗽を緩解し喀痰を去るものである。それからまた消渇の效もあるもの故何か毒なものを食したる時には澤山の砂糖湯を服用するのも應急の處置として宜しく、また疲勞せるときには、砂糖分の強きものを食すれば疲勞を忘るゝなど頗る效あるものである。

●●果實　酸分の多き果實を取れば血液中の酸を減じ、尿酸の排泄を多くして「レウマチス」を醫するものである。其他には多くの熱病に與へて渇を醫し、病の經過を短縮し、また葡萄、水蜜桃は身體の健康を助け、焙りたる栗、生の「オレンヂ」は消化を助け、無花果、櫻實、莓等は滋養分多く、輕く通痢あらしむるには苹果、無花果、櫻桃等の煮たるを用ひ、胃病にて胸の焼けるのには毎日時を定めて葡萄、桃、莓、梨、無花果、波斯棗等を食すれば三日乃至一週日にして全快すべく、梅干はまた消化を助け、綴れて細菌を殺し、鉛毒を防ぐの效がある。すべて赤き汁、黑き汁の出る果物は鐵分を含むこと多きもの故貧血性の人によろしく小兒の蛔蟲は果實の酸によつて驅除されまたは發生を止むるもの故、何人と雖も毎食後に季節〳〵の果實を食するは除病保健上頗る有益なることにて歐洲諸國の醫師は盛んに之を病者に用ゐて居る。

●●●●●西瓜は消渇の藥　消渇とは婦人の尿道淋のことを云ふのであるが、これには昔から西瓜は藥だと云はれて居る、之を多食すると尿利が多くなる、隨つて病的尿道を自然に洗ひ去ることになつて甚だよろしいのである、併しこれは敢て西瓜に限らず胡瓜でも白瓜でも總て瓜類ならば結構である。

●●●落花生　落花生は植物性食品中最も多く脂油に富み、然も味甚だ佳に、長く用ひて飽かずまた諸種の調理に用ひられ、然も價は廉にして隨處に求めらるゝと云ふ點よりして、予は常に之を結核患者に勸めて居る。



○宮城用水道

宮内省にては從來、東京市經營の水道を引いて宮中はもとより省内一般の用を滿たし來りしが、夫れにては毎年夏期の水量不足の時に際し、畏きあたりの

思召にて御苑の噴水をさへ止めさせ給ふ事あり、恐れ多き極みにて且つ兩陛下御料に奉る水なればとて數年前に特に宮城用水道を敷設せんとの議起り、內匠寮の山本技師其他が工事設計をなしたる事あり、されど鐵材價格騰貴の折柄とて着手を控へゐたるが愈〻來る八月初旬より起工の事に決定し、豫算は約參拾萬圓にて三年間繼續し、水源地たる府下東村山より淀橋淨水場に引き、同所に特別宮內省用の淨水池を設けて宮城に直通せしむべく喞筒用機關等全部も同省用を新に据付くる筈なり。

○遣英看護婦の受勳

我が遣英看護婦長勳七等山本やを子、同清岡繁子の兩女史は英國皇后陛下より贈勳ありたるが今回左の如くその佩用を允許されたり。

大不列顚國皇后陛下より贈與されたる赤十字第一等勳章を受領し及び佩用することを允許せらる。

○發疹「チフス」豫防心得書

大日本私立衞生會にては左記の發疹「チフス」豫防心得書を市內各署に配布したりと。

一、一室に多人數密集する場所例ば各種の觀覽場等へ成るべく立入り又は宿泊せざる事。

一、家屋の內外を淸潔にし室內は絕えず空氣の交換を計り充分に乾燥せしめ蚤虱蠅等の發生を防ぐ事

一、外出より歸宅したる際は直に外套上著等の塵埃を拂ひ手指を洗滌し能く含嗽し然る後室內に入る事。

一、止むを得ず患者又は死者を見舞ふ時若くは病毒汚染の疑ひある家に立ち入る時は「レスピラトール」(口帽)を以て鼻、口を覆ふこと、「レスピラトール」の用意なき場合は手拭又は「ハンカチーフ」の類を以て同樣にすること。

一、同病人のある家は勿論毒汚染の疑ひある家に宿泊若くは一定時間在居する時は盡く牖戶を開放し充分に空氣の交換を計ること。

一、此際身に異常を感じ殊に發熱あるものは速に醫治を乞ひ大事に至らざる樣注意すること。

○新女醫

去る五日より十日まで執行したる醫術開業後期實地試驗に及第したる婦人九名ありたり、左の如し。

久納　高子　小澤　光子　多田宇多子　龜　末子
芝田　房子　高橋　柳子　坂井みさき　鈴木富美子
藤井孝子

○東京市の撒水費用

此頃の如く照つゞきて道路面乾燥し、少しく風吹くときは東京市内は眞に黄塵萬丈の巷と化し、市民の苦情尠からず、之に付ては市衛生課に於ても大に研究しつゝある模樣なるが、藥物撒水は費用の點より實行し難く、或は樹木の害となり、泥と共に衣類に撥ねて汚點となる等の虞あり、昨秋御大典の砌、上野へ行幸の御道筋に鹽二石に水一石の割にて其前日撒布したるが非常に好成績を得、引續き飛塵防止の工夫をめぐらすも何分廉價にて好成績を得る法を發見し難く、現在撒水しつゝある水は一坪年額僅かに八錢壹厘位のものなれば、日に數回撒水することとなるが、それにても每年電動力用水器費、撒水夫給料、撒水車の新調修繕費等を積算するときは年額拾壹萬圓を要すと云ふ、而して撒水施行の道路面積は百七萬三千餘坪なりと。

○狂犬增加

其筋に於て極力豫防法を講究し居れるが、狂犬は年年增加の傾向を示し、東京府下に於て明治三十六年に二十九頭、四十三年度には五十頭內外、四十四年度には一躍四百四十三頭に上り、一時減少したるも大正元年には又々四百七十三頭の多數を算するに至れり。狂犬の最も多く發生するは例年六七月の頃にて、平均七十五六頭に達し、一月より初夏に至るまでの平均十頭乃至十四五頭なるに本年は殊に狂犬の發生多く、一月に十八頭、二月に三十二頭、三月に二十三頭、四月には二十七頭ありたりと云ふ。依て警視廳にては管下各警察に對して野犬の捕獲、畜犬の保護、狂犬の撲殺に關する通牒を發し、目下全力を擧げて野犬の捕獲に從事しつゝありと。

○新案服裝審査

讀賣新聞社樓上に開催されたる新案服裝展覽會はなかなかの盛況にて、去月二十二日より塚本、伊東の兩工學博士、跡見花蹊、神田順子女史等の審査を經て同二十四日左の如く決定したり。

二等

小學生服　大阪河北高等女學校　島田すゑ子
夜具　靜岡縣御殿場　杉山よし子

三等

女學生服　東京　和洋女藝學校
女學生服　神戸　親和高等女學校
夜具　石川縣實科高女　寺尾きく子
枕　本所　瀧口由三郎

選外一等

女學生服(河口あい子)小學生服(木村秀三郎)小學生服(藤川次郎)小學生服(中島よし子)小學生服(櫻井くに子)腹卷(木村榮造)外選外二等二十八名。

廣告

○私立大日本婦人衛生會例會

本月三日午後一時より神田區女子職業學校内に例會を開き左の講演ありたり。

一、日焦の原因及び豫防に就て　醫學博士　高橋順太郎君
一、夏の衛生　醫學士　山中敏樹君

高橋博士の講話は本號講演欄に掲載せる所の如し。山中醫學士の講話は次號の本紙に掲載すべし。高橋博士の講話畢りて後、伊東蝴蝶園にては同博士の發見處方に依て創製したる日焦豫防化粧料「御園ルチヂン」數打を本會に寄贈せられたり。

當日出席の役員は左の如くなりき。

鳩山春子　小川孝子　濱尾作子　天野多喜子
濱田捨子　山本多穗子　山口てい子　近藤憲子
岸澄子　宮木榮子　田村きよ子　丹波貞子
(以上出席順)

○役員會

本月十五日午後二時より小石川區金富町濱尾男爵邸に於て本會役員會を開き高木幹事及び藤村事務員より音樂會殘務に關する諸般の報告あり、尚ほ次回例會其他の諸件につき協議する所あり、濱尾副會長よ

り鄭重なる茶菓の饗あり同五時散會せり。當日の出席者は左の如くなりき。

濱尾副會長　山口　貞子　三宅　䕃子　中濱　芳子
濱田　捨子　近藤　憲子　緒方　悦子　宮本　樂子
土肥多越子　菊池　米子　鳩山　春子　高木　深子
吉岡　彌生　田村きよ子　武田　貢子

右の報告に據れば本會主催の音樂會は役員竝に會員諸姉の特別なる賛助と斡旋とに依り豫想以上の好成績を收め其の目的の幾分を達し得たるわけにて、本會は之を以て必ず本會の趣旨貫徹に活用せむことを期し、此際賛助せられたる會員諸姉に對し深厚の謝意を表するものなり。

前號音樂會記事出席役員中に三浦敎子、岡田德子の兩幹事を脫漏せるは全く記者の不注意に出づ、兩幹事が當日開會前後熱心に役員としての勞を執られたるに對し玆に改めて謝意を表す。

○入會者

○小川孝子紹介
●麴町區四番町四番地　特別　中山ヤノ子

○阿部恒子紹介
●札幌區北一條西六ノ一　通常　橋本藤子

○羽田三結子紹介
●赤坂區檜町一橫濱看護婦會會主　特別　田家準子
●同上　通常　山野內ヨウ子
●同上　通常　太田志賀子
●同上　通常　石丸咲子
●同上　通常　新野貴志子
●同上　通常　上野脇子
●同上　通常　稻垣千穗子
●同上　通常　茂本なか子
●同上　通常　野中のぶ子
●同上　通常　北島さき子

○轉居

本郷區西片町ヨリ同曙町十六ろノ五號　芳我皆子
大阪ヨリ東京四谷區永住町二番地　小瀨よし子

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁　東伏見宮妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事	鳩山春子	同	長谷川仲子
同	岡田德子	同	高木鍒子
同	山木多穗子	同	三浦敎子
同	松平芳子		
評議員	入澤常子	同	羽田三緒子
同	濱田捨子	同	服部繁子
同	仁禮壽賀子	同	四舛子
同	土肥多越子	同	緒方悦子
同	岡山とし子	同	小川孝子
同	男爵夫人 加藤鈴子	同	片山龜子
同	吉岡彌生子	同	丹波貞子
同	高橋孝子	同	田村きよ子
同	武田貫子	同	鶴原誠子
同	男爵夫人 南部隈子	同	中濱芳子
同	山口貞子	同	子爵夫人 松井正子
同	古市幸子	同	小松いさ子
同	近藤憲子	同	伯爵夫人 阿部篤子
同	天野多喜子	同	岸澄子
同	菊池米子	同	三宅藤子
同	宮本樂子	同	宮下咲子
同	守屋千代子		

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一冊　定價金貳拾錢　郵税壹錢
三冊（三ヶ月分）　前金郵税共　金四拾五錢
十二冊（一ヶ年分）　前金郵税共　金壹圓八拾錢

廣告料

一頁　六十二行　一行二十三字
壹頁　金五圓　半頁　金貳圓五拾錢
○特別廣告　壹頁金拾四圓　半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ（）本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正五年六月十七日印刷
大正五年六月二十日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地　莊司秋次郎
印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　櫻井新三郎
印刷所　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　杏林舍

發行所　東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町　吐鳳堂
同市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鈴屋町　良明堂
同市本郷區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京市日本橋區呉服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛作堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店

婦人衛生雜誌第三百十九號（大正五年六月二十日發行）　明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可（毎月一回廿日發行）

東京帝國大學醫科大學教授
醫學博士 高橋順太郎氏發見

御園ルチゲン

日に焦けぬ化粧料

日焼けを防ぐ完全なる化粧料御園ルチゲンは日焦けの原因たる太陽光線中の紫外線を防遏ぐ高橋博士が發見したるルチゲンが主成分となつて、之に本舗研究部に於て純良なる化粧材料と芳香原料とを配合して調製て居りますから附けて毫も日立たず決して皮膚を荒さず完全に日焦けを防ぐ效能がありますから時節柄是非皆様の御使用を願います。

尚日焦けの「原因と其豫防」の學問上の說明は本誌講演欄高橋博士の御高說を御覧下さい。

定價金參拾錢

御園白粉本舗
伊東胡蝶園